



みえを歩こう  
海・山の眺望にリフレッシュ  
コロコロとカラダの健康ウォーキング  
尾鷲市

# 向井地区周遊・ 向井ロングコース

体力に応じて  
コースが選択  
できる

海と山に囲まれ、漁業や林業のまちとして栄えてきた尾鷲市では、健康づくりに役立つウォーキングマップを市内に20コース設定。効果的に歩けるよう、運動強度、歩数、消費カロリーなどが表示されています。その一つ「向井ロングコース」は海と山の雄大な景色を堪能できるルート。市の南東部にある向井地区には集客交流拠点の「三重県立熊野古道センター」と「夢古道おわせ」があり、観光資源を活かしたまちづくりが進み、傾斜面には農地が広がっています。遊休農地を利用してキャンプ場もできています。前半は上り坂ですが、高台から尾鷲湾と山並みを眺め、田園風景を楽しみながら下り、海沿いを通り過ぎて、マイナスイオンを浴びる滝に寄り道。尾鷲の魅力が凝縮されたコースを歩きます。

取材・文：中村元美

## 丘陵地の畑やキャンプ場 海山の絶景を堪能

今回の散策の起点は「三重県立熊野古道センター」です。熊野古道を中心とした歴史や文化などを詳しく紹介する施設で、「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録されたことを契機にオープンしました。建物には尾鷲ヒノキ6549本が使われていて、周りの自然景観にもなじんでいます。

広大な芝生広場を通り抜け、坂道を進んでいきます。最初は上り坂、中盤は下り坂のあるルートですが、ゆるやかな高低差で、景色も季節ごとに様変わりし、歩き甲斐のあるコースとなっています。

左手には尾鷲の味覚をさまざまに揃えたレストラン「夢古道おわせ」と海洋深層水のお風呂「夢古道の湯」がある情報交流センター。歩き終えた後にゆっくり過ごすのもいいでしょう。

「段丘地形の中に田んぼが作られた向井地区には甘夏畑もあり、尾鷲市内でも農業が盛んな地域です」と川口洋司さん。道沿いの畑には向井の特産品である「ときわ漬」の大根や伝統野菜の青唐

辛子「虎の尾」の畑があります。「夢古道」を通り過ぎ、左へ曲がると看板とコンテナが目に飛び込んできます。甘夏畑から世代交代した、約300鉢、20種類のブルーベリーを栽培する「おわせむかい農園」です。シーズンには自分で摘み取る「お買い物狩り」が人気のようです。ここからはヒノキの木陰を歩いて森林浴ゾーン。所々に甘夏の木を眺め、道なりに進んでいくとT字路にれます。「健康ウォーキングマップ」のコースはここで右に曲がりますが、川口さんに勧められて左の坂道を上がっていくと、10



路線バス「熊野古道センター前」



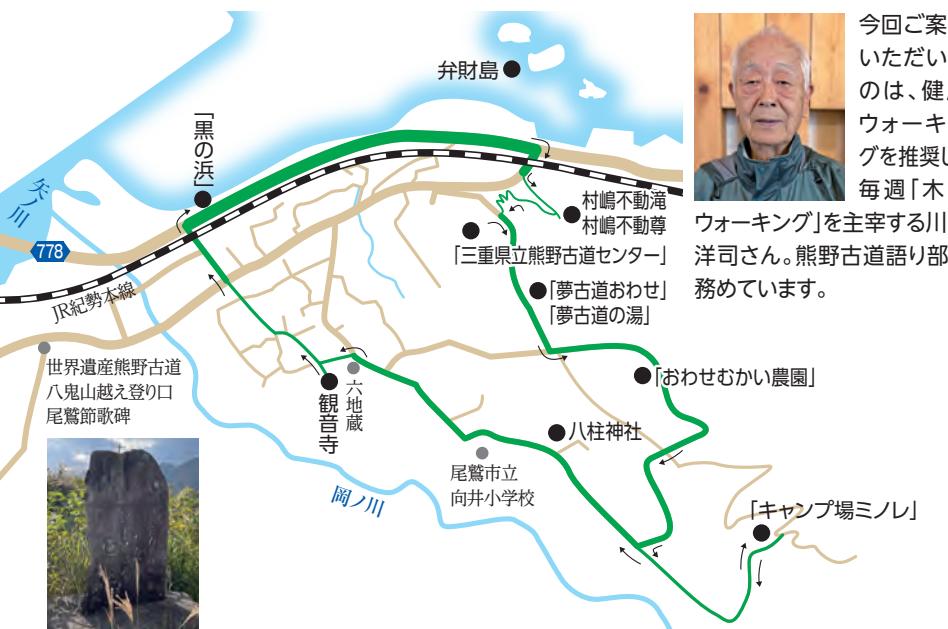
「三重県立熊野古道センター」



「夢古道の湯」入り口



「おわせむかい農園」



今回ご案内いただいたのは、健康ウォーキングを推奨し、毎週「木曜ウォーキング」を主宰する川口洋司さん。熊野古道語り部も務めています。

■ 行程図 所要時間／約2時間30分 ※所要時間は、おおよその目安です。

START





干潮時に渡れる弁財島



滝までの遊歩道



落差12mの村嶋不動滝



村嶋不動尊を祀る

に面した「黒の浜」があります。かつては良質の黒い砂がとれたようで、春から初夏の干潮時には潮干狩りも楽しめたようです。

尾鷲湾に浮かぶ緑の小島は地元で「べざいさん」と呼ばれる弁財島。潮が引けば島へと渡ることができます。島の前に建つ赤い鳥居をくぐついくと、山頂の小さな祠に海上安全、災難除の弁財天が祀られています。弁財天は七福神の一つ。いつ頃から祀られているか、起源はわかつていませんが、江戸後期の天保10(1839)年に紀州藩が完成させた地誌『紀

分弱で眺望の効く高台に出ました。目の前に尾鷲湾、その海を取り巻くよう緑の山並みが広がっています。「正面に見える峰々は、便石山、熊野古道伊勢路の馬越峠、天狗倉山、そしてオチヨボ岩と、それらをつなぐのが尾鷲トレイルです」と川口さん。全長約40キロメートル、累積標高差4000メートルになる県内屈指のトレイルルートが整備されています。

眼下には、甘夏の段々畑を利用したテントサイト「キャンプ場ミノレ」。白いインスタントハウスが目を惹きます。



高台からの眺め



「キャンプ場ミノレ」



氏神の八柱神社



曹洞宗の観音寺

## 小川のせせらぎと滝のマイナスイオン

伊続風土記に、「向井村の辨財天島」との記述があります。時を経て朽ちていた祠を昭和36(1961)年に向井地区が再建し、旧暦3月3日を祭礼日と定め、自治会が毎年祭礼を行っています。

海沿いに歩いて「三重県立熊野古道センター」の看板で横断歩道を渡ります。ここからマイナスイオンのスポット、村嶋不動滝へと遊歩道を進みます。初夏、照葉樹に囲まれた小川を、大型の野草ハ

ンカイソウの黄色い花が彩ります。地元で「村嶋の滝」と呼ばれる村嶋不動滝は、直下型の美しい滝。昔、行者が修行するために、不動尊を祀り、小径を付けたといわれています。

来た道に戻り、なだらかな石畳の道を上れば、ゴールの古道センターです。尾鷲の海・山の眺望を楽しみ、小鳥のさえずりや川のせせらぎ、マイナスイオンたっぷりの滝の音を聞きながら、心身ともにリフレッシュできるコースです。

尾鷲の海・山の眺望を楽しみ、小鳥のさえずりや川のせせらぎ、マイナスイオンたっぷりの滝の音を聞きながら、心身ともにリフレッシュできるコースです。

尾鷲の海・山の眺望を楽しみ、小鳥のさえずりや川のせせらぎ、マイナスイオンたっぷりの滝の音を聞きながら、心身ともにリフレッシュできるコースです。

**氏神、氏寺のある住宅街を抜ける**  
一軒の民家を通り過ぎると右手に鳥居が見えました。向井地区の氏神・八柱神社で、天津日子根命など8柱のご祭神を祀り、地元で「八柱さん」と呼ばれ親しまれています。

市道へと戻ると尾鷲市立向井小学校で、海拔43メートルにあり災害時の避難所にもなっています。右手に見えるビ

人里を離れ、夜は満天の星空を眺める抜群の開放感です。ここで引き返し、T字路まで坂道を下っていきます。

ニールハウスで育つのは、「森のキャビア」と呼ばれる「フィンガーライム」です。そこからさらに進み、庚申塚のある墓地を過ぎて、六地蔵で左に曲がると観音寺があります。元和元(1615)年に、市内林町の常聲寺5世を迎えて開山、天和元(1681)年に創建された曹洞宗のお寺です。

住宅街を進み、十字路に出ます。コースは真っ直ぐ海へと向かいますが、左方面は熊野古道八鬼山へと続く道になっています。

踏切を越え、県道を渡った先に尾鷲湾

ア」と呼ばれる「フィンガーライム」です。そこからさらに進み、庚申塚のある墓地を過ぎて、六地蔵で左に曲がると観音寺があります。元和元(1615)年に、市内林町の常聲寺5世を迎えて開山、天和元(1681)年に創建された曹洞宗のお寺です。

住宅街を進み、十字路に出ます。コースは真っ直ぐ海へと向かいますが、左方面は熊野古道八鬼山へと続く道になっています。

踏切を越え、県道を渡った先に尾鷲湾